

小児後部尿道ポリープの1例

国立松本病院泌尿器科 (医長: 米山威久)

紺谷 和彦, 水沢 弘哉, 岡根谷利一, 米山 威久

A CASE OF POSTERIOR URETHRAL POLYP IN A CHILD

Kazuhiko KONTANI, Hiroya MIZUSAWA, Toshikazu OKANEYA and Tekehisa YONEYAMA

From the Department of Urology, National Matsumoto Hospital

A case of posterior urethral polyp in a child is reported. A 14-year-old boy presented to our hospital with the chief complaint of a sense of residual urine. Ultrasound sonography and cystoscopy showed a posterior urethral tumor (1.5 cm×1.8 cm). Transurethral resection was performed, and the pathological diagnosis was a fibrous polyp. One year after transurethral resection, the patient showed no signs of recurrence. Only 8 cases of posterior urethral polyp in children have been previously reported in the Japanese literature.

(Acta Urol. Jpn. 44: 53-55, 1998)

Key words: Urethral polyp, Child

緒 言

男子尿道に発生する良性腫瘍は、比較的稀な疾患である。なかでも小児の報告例は自験例を含めて8例しかなく非常に稀である。今回われわれは小児の後部尿道腫瘍の1例を経験したので報告する。

症 例

患者: 14歳, 男児

主訴: 残尿感

既往歴: 川崎病

家族歴: 特記すべきことなし

現病歴: 1995年6月頃より尿線が細くなり、残尿感も出現した。1996年1月9日残尿感を主訴に当科を受診した。外来で超音波検査、尿道鏡を施行し前立腺部尿道に腫瘤を認め、治療目的で入院となった。

入院時検査所見: 血液一般、血液生化学、PSA、尿所見、異常なし。尿細胞診は、class Iであった。

画像診断: IVPの所見では膀胱に残尿を認めたが上部尿路の拡張は認めなかった。超音波検査上膀胱に著明な尿の貯留を認め尿閉の状態であった。また、膀胱頸部から後部尿道にかけて1.5 cm×1.8 cmのhyperechoic lesionを認めた (Fig. 1)。膀胱造影は施行しなかった。

尿道鏡: 膀胱頸部2時から前立腺部尿道にかけて小指頭大の有茎性乳頭状の腫瘍を認めた。尿道腫瘍の診断で1月23日腰麻下に経尿道的腫瘍切除を施行した。

病理組織所見: 組織学的には、腫瘍は乳頭状に分枝し、異型のない移行上皮で覆われ間質は厚く線維組織で占められ、毛細血管が散在している。腺管構造は認

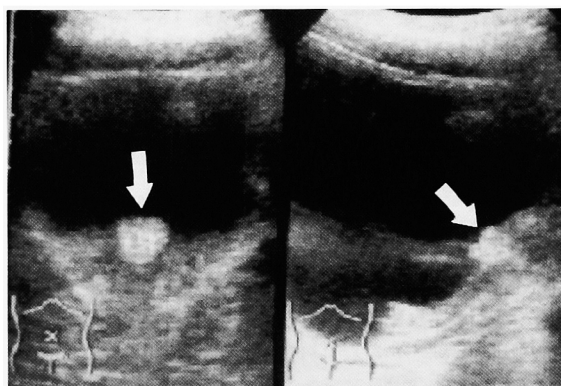


Fig. 1. Transabdominal ultrasonography shows a hyperechoic mass (arrow: polyp). left: cross section, right: longitudinal section.

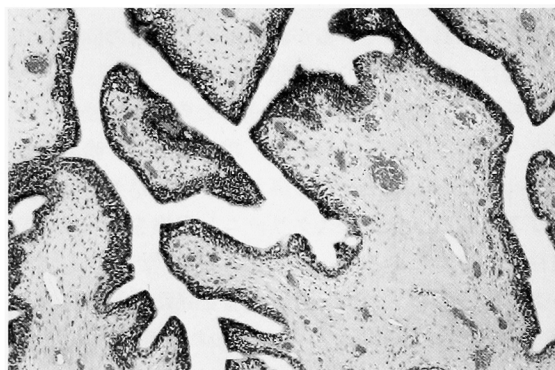


Fig. 2. H & E staining of histological section of the polyp: fibrovascular stroma covered by normal transitional epithelium.

められなかった (Fig. 2)。PSA 染色は、陰性であった。

Table 1. A review of posterior urethral polyps in children in Japan

症例	報告者	年齢	主訴	治療	後部尿道部位	組織像
1	井上 (1952)	1歳5カ月	尿閉	膀胱高位切開術	不明	不明
2	市川 (1964)	1歳8カ月	排尿困難	膀胱高位切開術	不明	線維性
3	林正 (1979)	12歳	血尿	膀胱高位切開術	膀胱頸部	腺腫性
4	岡本 (1987)	7歳	血尿	TUR	精阜	腺腫性
5	同上	11歳	遺尿症	TUR	精阜	線維性
6	井口 (1994)	10歳	尿路感染	TUR	精阜	線維性
7	我喜屋 (1994)	5歳	尿路感染	TUR	精阜	線維性
8	自験例 (1997)	14歳	残尿感	TUR	膀胱頸部	線維性

以上より後部尿道に発生した線維性ポリープと診断した。術後1年を経過しているが、再発を認めていない。

考 察

現在男子尿道腫瘍の分類とし Mostofi ら¹⁾の AFIP 分類がよく用いられている。この中でポリープは、移行上皮由来の炎症性、線維性、円柱上皮由来の腺腫性に分けられる。本症例は、移行上皮に覆われ、間質が線維組織に富み、炎症細胞を認めず、また PSA 染色陰性の所見より線維性ポリープにあたる。

本邦における小児後部尿道ポリープは自験例を含めて8例²⁻⁷⁾が報告されている (Table 1)。8例を検討してみると平均年齢は7.8歳、線維性が5例で、腺腫性が2例、不明が1例あった。線維性の割合が高い傾向にある。

男子後部尿道から発生した線維性ポリープは、1856年に Thompson⁸⁾が最初に発表してから現在までに70例以上の報告がある。外国では、小児の報告例が多く、Downs⁹⁾は平均9.7歳と報告しており、この疾患が尿道壁から発生した先天的なものと考えている。

本邦では大藤¹⁰⁾、川原¹¹⁾が成人の線維性ポリープを報告しており今までに成人例は6例報告されている。成人例と小児例はほぼ同数であり、Downsの報告とは異なっているが診断機器や技術の向上により今後は小児例の増加が予想される。

診断には、排尿時膀胱尿道造影と内視鏡検査⁹⁾が有効とされているが、本症例は、超音波検査で膀胱頸部に hyperechoic lesion の腫瘍が認められ精査の結果診断が下された。今後はスクリーニング検査として超音波検査が有効であろう。また、井口⁶⁾が報告しているように腫瘍の発生が尿道壁か前立腺かの鑑別には、PSA などの特殊染色が有用と思われ本症例でも PSA 染色陰性であったので尿道原発とした。

本邦の小児の後部尿道線維性ポリープの発生場所を検討してみると5例中3例が精阜周囲より近位に向かって発生している。外国でも同様の報告がされているおりほとんどは有茎性で、単発例が多いが多発例の報告もみられる¹²⁾。自験例では膀胱頸部から後部尿

道にかけて発生したが、このような症例は他に1例報告されているだけである。

また、Kimche ら¹³⁾は後部尿道ポリープの患者の20%に上部尿路の拡張を、8%に VUR を8%に膀胱憩室の合併を認め、ポリープの治療後 VUR が改善した症例があったと報告しているが、本症例では上部尿路の拡張や膀胱憩室などは認めなかった。これは本症例では腫瘍による閉塞症状が強かったため比較的早期に診断治療が行われたため、二次的合併症がでなかったためと推測される。

治療法であるが、以前は膀胱高位切開術が行われたが、現在では内視鏡機器の発達により小児にも経尿道的切除術が施行されている。しかしながら、本腫瘍の好発部位である精阜近傍での内視鏡操作には射精管の損傷なども報告されているので今回は行わなかったが、Henriquez ら¹⁴⁾の提唱しているように低周波の電流で、広範囲の凝固を避けるなどの注意が必要であろう。本症例では膀胱頸部に腫瘍が発生したため、特に問題はなかった。

小児の後部尿道線維性ポリープの治療後の予後は良く、外国の報告でも再発の報告¹⁵⁾は1例しかない。

結 語

男児後部尿道ポリープの1例を経験したので、若干の文献的考察を含めて報告した。

なお本論文の要旨は第128回日本泌尿器科学会信州地方会にて発表した。

文 献

- 1) Mostofi FK and Price EB Jr: Tumor of the Male Genital System. 2nd ed., pp.263-269, AFIP, Washington DC, 1973
- 2) 井上武夫: 尿道ポリープ症例追加. 日泌尿会誌 **43**: 462, 1952
- 3) 市川篤二, 熊本悦明: 尿道ポリープによる小児排尿障害例. 小児科 **5**: 596-599, 1964
- 4) 林正健二, 滝 洋二: VUR を伴った尿道異所性前立腺組織の1例. 泌尿紀要 **25**: 67-69, 1979
- 5) 岡本英一, 谷風三郎, 橋本公夫: 小児にみられた男子尿道ポリープの2例. 臨泌 **41**: 339-341,

- 1987
- 6) 井口 宏, 吉川裕康, 浜島寿充, ほか: 小児後部尿道ポリープの1例. 泌尿紀要 **40**: 265-267, 1994
 - 7) 我喜屋宗久, 中井秀郎, 宮里 実, ほか: 排尿障害 膀胱尿管逆流を認めた男児後部尿道ポリープの1例. 西日泌尿 **56**: 677-680, 1994
 - 8) Thompson H: Polypoid growth of the verumontanum. Trans Med Soc Lond **7**: 250-251, 1956
 - 9) Downs RA: Congenital polyp of the prostatic urethra: a review of the literature and report of two cases. Br J Urol **42**: 76-85, 1970
 - 10) 大藤哲朗, 長田幸夫, 石澤靖之, ほか: 男子尿道ポリープの1例. 西日泌尿 **49**: 1491-1494, 1987
 - 11) 川原 元, 和田鉄郎, 田代和也, ほか: 前立腺部尿道に発生した線維性上皮性ポリープの1例. 臨泌 **44**: 60-62, 1990
 - 12) Meadows JA and Quattlebaum RB: Polyps of the posterior urethra in children. J Urol **100**: 317-320, 1968
 - 13) Kimche D and Lask D: Congenital polyp of the prostatic urethra. J Urol **127**: 134, 1982
 - 14) Henriquez J, Valle C and Martell R: Polipo congenitode uretra posterior. Acta Urol Esp **10**: 141-144, 1986
 - 15) Frate R and De Luca FG: Urethral polyps in male children. Radiology **89**: 289-291, 1967

(Received on July 17, 1997)

(Accepted on September 26, 1997)